

シ ラ バ ス

(6年次用)

平成25年度 6年次授業日程表

週	日程	月	火	水	木	金
1	3月25日～3月29日			春休		
2	4月1日～4月5日					1-1
3	4月8日～4月12日					1-2
4	4月15日～4月19日					1-3
5	4月22日～4月26日					1-4
6	4月29日～5月3日	祝日		実習報告週(チュークへの実習状況報告等)		祝日
7	5月6日～5月10日	祝日				
8	5月13日～5月17日					1-6
9	5月20日～5月24日					1-7
10	5月27日～5月31日					
11	6月3日～6月7日					2-1
12	6月10日～6月14日					2-2
13	6月17日～6月21日					2-3
14	6月24日～6月28日					2-4
15	7月1日～7月5日					2-5
16	7月8日～7月12日					2-6
17	7月15日～7月19日	祝日		実習報告週(チュークへの実習状況報告等)		
18	7月22日～7月26日			夏休		
19	7月29日～8月2日			夏休		
20	8月5日～8月9日			夏休		
21	8月12日～8月16日			夏休		
22	8月19日～8月23日			夏休		
23	8月26日～8月30日					3-1
24	9月2日～9月6日					3-2
25	9月9日～9月13日					3-3
26	9月16日～9月20日	祝日				3-4
27	9月23日～9月27日	祝日				3-5
28	9月30日～10月4日					3-6
29	10月7日～10月11日			発表準備期間／実習報告週		発表会(2日間)
30	10月14日～10月18日	祝日				
31	10月21日～10月25日					
32	10月28日～11月1日					
33	11月4日～11月8日	祝日			予定：卒試(国試形式)	※期間中2日間
34	11月11日～11月15日					
35	11月18日～11月22日					
36	11月25日～11月29日				予定：卒試(再試)	※期間中1日間
37	12月2日～12月6日					
38	12月9日～12月13日					
39	12月16日～12月20日					
40	12月23日～12月27日	祝日				
41	12月30日～1月3日					
42	1月6日～1月10日					
43	1月13日～1月17日	祝日				
44	1月20日～1月24日					
45	1月27日～1月31日					
46	2月3日～2月7日					
47	2月10日～2月14日		祝日			
48	2月17日～2月21日					
49	2月24日～2月28日					
50	3月3日～3月7日					
51	3月10日～3月14日					祝日
52	3月17日～3月21日					
	3月24日～3月28日					

科目名：全人医学**場所： 大講義室**

区分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（疫学分野） 教授 西尾 久英
	連絡方法	TEL: 078-382-5540 E-mail: nishio@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 氏 名	外科系講座（麻酔科学分野） 講師 高雄 由美子
	役 氏 名	内科系講座（医療情報学分野）／附属病院医療情報部 准教授 高岡 裕
	役 氏 名	地域社会医学・健康科学講座（プライマリ・ケア医学分野） 特命教授 橋本 正良
	役 氏 名	淀川キリスト教病院 健康管理科 部長 藤田 剛
	役 氏 名	看護部 部長 松浦 正子
担当教員 (学部外)	役 氏 名	神戸大学大学院法学研究科 教授 丸山 英二
担当教員 (学外)	役 氏 名	国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア科 部長 安保 博文
	役 氏 名	西本クリニック 院長 西本 隆
	役 氏 名	兵庫県スマソンの会 会長 春本 幸子
	役 氏 名	兵庫県 理事 細川 裕平
	役 氏 名	独立行政法人福祉医療機構 審議役 山本 光昭
学習到達目標	医療の今日的問題とそのアプローチ法を理解する。	
講義の概要・形式	チーム医療、薬害被害者の悲嘆、法律家の立場からみた医師活動、行政の立場からみた医療・保健、漢方医学、緩和医療といった医療の今日的問題について講義します。	
講義内容	<p>(1) ペインクリニック領域の漢方治療（担当教員：高雄）</p> <p>麻酔科の業務には周術期の麻酔管理、術後の全身管理とペインクリニックがある。この内ペインクリニックでは様々な痛みの治療を経験するが、痛みのメカニズムはまだ解明されていない点が多い。特に難治性慢性疼痛では「これをすれば治る！」といった治療法が確立されておらず、神経ブロック、薬物、理学療法を組み合わせた挑戦の日々である。最近われわれはこの難治性疼痛の治療に漢方薬を取り入れてきた。近年、東西医学の融合の重要性が認識されているが、日本の漢方医学は6世紀前半に中国からもたらされた日本の国情に合わせて工夫改良され日本独自の発展を遂げ今日に至る。今回の講義では痛みの治療における漢方薬の役割や効果についてのわれわれの取り組みを自験例を中心に紹介する。</p>	

講義内容

(2) チーム医療（担当教員：松浦）
現在、医療の現場ではチーム医療を推進するためのさまざまな努力がなされています。しかし、ひとくちにチーム医療といっても、その捉え方は多様で、医療従事者間でもその認識にはずれがあり、そのことが、チーム医療を困難にしている要因のひとつになっている場合があります。「チーム医療ということばは、立場や役割の異なる職員が勝手に言っているだけでみんなが同じように捉えていないのではないだろうか。そもそもチーム医療の定義っていうのはきちんとあるのだろうか？」と思われたことはありませんか。そこで、今回、「チーム医療」について改めて整理し、考察してみたいと思います。

(3) わが国の保健医療政策と医師の役割（担当教員：山本）

わが国の保健医療を取りまく環境の変化として、①疾病構造の変化、②少子高齢社会、③価値観の多様化、④経済の進展・低成長、⑤国際化の進展、⑥情報化の進展、⑦科学技術の進歩、⑧健康危機管理事例の多発について解説したうえで、医師と法律・行政との関わり、最近の保健医療政策の動向について解説する。また、厚生労働省医系技官の役割とその仕事の魅力について紹介したい。

(4) 終末期医療と緩和ケア（担当教員：安保）

進行癌を患った人は、身体・心理・家族・社会・環境・宗教・生と死への考え方など、各方面でそれ以前にはなかった問題を生じ、生活が損なわれていく。緩和ケア病棟では、患者と家族の生活状況を全体的にとらえたうえで、実現可能な患者・家族の希望を引き出し、その希望の実現のために障害となっている問題を一つ一つ解決していくか希望や問題を別の形に置き換えるとともに、患者や家族の人間関係を再構築することによって、癌によって損なわれた生活全体を改善することを目指している。今回の講義では、緩和ケアを行う上で必要な考え方を概説した上で、症状緩和の方法・難しい場面でのコミュニケーションのとり方など緩和医療の具体的な技術についてお話ししたい。

(5) 世界で活躍する医師となるために（担当教員：橋本）

1. 総合臨床医を創る防衛医大
2. 特殊な環境と学生生活
3. 卒業後の進路
4. 幹部候補生学校
5. 時代にさきがけた初任実務研修(研修医)
6. 米軍医療施設への問い合わせとサンフォード
7. 大津駐屯地と米留準備
8. 米国臨床留学 UPMC レジデントとして
9. 衛生学校教官
10. 国連P. K. O. 参加
11. 東京大学医学部での臨床医学研究
12. 朝霞駐屯地医務室
13. 神戸大学医学部 総合診療部創設
14. 医学教育改革 PBLとOSCE
15. 総合病床と文科省の支援
16. 6年生に伝えたいこと

(6) 東洋医学総論（担当教員：西本）

漢方医学は、紀元前4世紀頃に中国において編纂された「黄帝内經」という書物にその原型をみるが、その後、中国国内においては中国伝統医学として発展し、それを輸入した日本においては、15世紀頃から「漢方医学」として独自の体系化がなされてきた。その特色は生薬による治療と針灸治療であるが、昨今、西洋医学の発達の一方で、西洋医学では充分な対応ができない症状や疾患に対して、漢方治療が大きな効果を挙げることが認知されてきている。講義では、漢方医学の歴史・基礎を解説するとともに、臨床医学としての漢方が、西洋医学に対してどの分野でアドバンテージを持ちえるか、あるいは西洋医学をどのように補完しうるか、について紹介していきたい。

講義内容	<p>(7) 薬害（担当教員：春本） 医薬品には効果と同時に、必ず副作用があります。副作用がそれだけに止まらず、看過できない被害を人体にもたらした場合が薬害です。日本の代表的な薬害であるスモン（キノホルム薬害）を例に、日本の薬害の歴史、被害実態、日本で多発した原因などについて概説し、日常の診療の中での薬害防止について考えたいと思います。</p>
	<p>(8) 消化器内科領域の漢方治療（担当教員：藤田） 機能性ディスペプシア、胃食道逆流症、過敏性腸症候群、便秘症といった機能性疾患や、ゲップ・腹部膨満感といった腹部症状は、それらを抱える患者は多く、QOLを損なうものであるにもかかわらず、それらの病態に関する研究はまだ十分でなくその診断法や治療薬は西洋医学の範囲では限られている。漢方治療はそれらの疾患や症状に対して一定の有効性を示しており、QOLを重視する全人的医療において漢方治療を学ぶことは重要である。本講義においては、消化器内科領域の漢方治療に関するEBMを解説するとともに、漢方治療が有効であった症例の提示や、現在取り組んでいる漢方問診票を用いた臨床研究を取り上げる予定である。</p>
	<p>(9) 地域医療（担当教員：細川） 地域とは何か、医療とは何かを考えた上で、現在、兵庫県で対応している医療関連施策や考え方の基本（SEE, ASSESSMENT, PLAN, DO），施策の具体的実施手法など基本的な考え方を実例を使い講義します。具体例としては（1）医療確保施策　（2）感染症施策等を例示として考えています。講義を通じて、臨床にかかわる医師として社会との関連を理解し、医学と医療の相違点等を考えたうえで「これから医療のあり方」、「どんな医師をイメージして自己研修を計画するか」などの考え方の基本を講義します。</p>
	<p>(10) 鍼灸（担当教員：高岡） 鍼灸治療とは、我が国の伝統医学である東洋医学の治療法であり、生薬を用いた漢方治療と一対をなしている。ヒトゲノム解析の完了後、ゲノムに記録されている個人の体質情報を利用したテラーメード医療（ゲノム医療）実現に向けて研究が進められている。以前は「画一的な治療行為をおこなう西洋医学の欠点」に対して「東洋医学のアドバンテージは、個人個人の体質に合わせた治療」にあると謳われ、最近は「未病を治す」とも言われる。これらは、「テラーメード医療」や「予防医学」と同義といえる。本講義では、(1)ゲノム医療の現状、(2)ゲノム情報の再構成や医療応用等を解説し、引き続きゲノム科学の切り口で鍼灸を解析した意義と結果、すなわち(3)骨格筋に及ぼす鍼通電治療の効果、特にミオスタチン遺伝子とユビキチンリガーゼ遺伝子の発現抑制効果、(4)鍼通電治療効果の分子メカニズムを紹介し、今後の可能性について考察したい。</p>
	<p>(11) 医療・医学における倫理と法（担当教員：丸山） 生命倫理の基本原則について触れたあと、外科手術、臓器移植、安樂死・尊厳死・終末期医療を例として取り上げ、刑法の基本原則について説明し、あわせて、臓器移植と終末期医療に関する最近の動きを紹介したい。医療事故による法的責任の主要なものとして、①民事責任（損害賠償責任など）、②刑事責任、③行政上の制裁、について、成立の要件と効果および最近の傾向を解説する。その中で、インフォームド・コンセントの要件や個人情報保護法制の概要も取り上げたい。</p>
今年度の工夫	系統講義では取り上げられなかったテーマから、今日の日本の臨床医活動にとって特に重要なものを取り上げた。
教科書・参考書等	
成績評価方法と基準	出欠を重視する。

大講義室 授業科目名 (全人医学)

週	月 日 (曜)	時 間	講 義 題 目 ・ 実 習 題 目	担当
1	5月 20日 (月)	10:10~11:10	ペインクリニック領域の漢方治療	高雄
		11:20~12:20	チーム医療	松浦
		13:20~14:20	わが国の保健医療政策と医師の役割 (1)	山本
		14:30~15:30	わが国の保健医療政策と医師の役割 (2)	山本
1	5月 21日 (火)	10:10~11:10	終末期医療と緩和ケア (1)	安保
		11:20~12:20	終末期医療と緩和ケア (2)	安保
		13:20~14:20	世界で活躍する医師となるために (1)	橋本
		14:30~15:30	世界で活躍する医師となるために (2)	橋本
1	5月 22日 (水)	10:10~11:10	東洋医学総論 (1)	西本
		11:20~12:20	東洋医学総論 (2)	西本
		13:20~14:20	薬害	春本
		14:30~15:30	消化器内科領域の漢方治療	藤田
1	5月 23日 (木)	10:10~11:10	地域医療	細川
		11:20~12:20	鍼灸	高岡
		13:20~14:20	医療・医学研究における倫理と法(1)	丸山
		14:30~15:30	医療・医学研究における倫理と法(2)	丸山

区分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 氏 名	内科系講座（臨床検査医学分野） 准教授 河野 誠司
	連絡方法	TEL: 078-382-6596 E-mail:ahozu@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
学習到達目標	疾病構造の変化から、多くの診療科が関わるケースが医療現場では増えている。複数の診療科が関わる症例を選択し、各々の診療科の専門医が病態の診断ならびに治療法に関して活発に討論し、最善の方法を選択していくまでの過程を学生も参加して学ぶことを目標とする。ぜひ、チーム医療と全人的医療の大切さを学んでいただきたい。	
講義の概要・形式	横断的な症例が選択されており、幅広くさらに高度な知識が要求される。学生にも討論に参加してもらうので、テーマに対して積極的に予習をお願いする。	
講義内容/ 学生へのメッセージ	<p>【災害・救急医学】 急速な転帰をとった肺炎症例とともに、臨床経過を提示する。それとともに、学生の皆さんに診断を考えて頂きます。その後、肺炎の診断・治療、画像診断、病理診断の実際を解説します。 ~メッセージ~ 定形肺炎と非定形肺炎の鑑別と治療の治療方法についてよく調べて来て下さい。</p> <p>【神経内科学】 トルーソー症候群の原因・診断・治療について症例を交えて解説する。 ~メッセージ~ 悪性腫瘍の遠隔効果に伴い生じる癌性脳梗塞であるトルーソー症候群は予後不良な疾患ですが、早期発見・早期治療することにより予後改善が期待できます。この機会にトルーソー症候群に対する理解を深めてください。</p> <p>【皮膚科学】 不治の腫瘍であった血管肉腫の治療は、近年劇的な変化をとげ、著しい治癒率、生存率の向上が得られている。その背景には、新しい化学療法薬剤の開発、放射線療法の進歩が大きく寄与していると考えられる。皮膚悪性腫瘍の概説・一般的な治療を解説した上で、血管肉腫の悪性度、治療の特殊性について講義する。 ~メッセージ~ 本腫瘍の治療の変遷・進歩から、医学の限りない可能性を感じて下さい。</p> <p>【小児科学】 神經芽腫は小児固形腫瘍の中で最も頻度の高い疾患である。疾患全体の俯瞰を小児科が、診断時の病理組織について病理部・病理診断科が、手術について小児外科が、疾患の最新の分子生物学的研究について小児科が講義します。 ~メッセージ~ がん診療は多くの診療科が関わるunion treatmentの典型です。</p>	

	<p>【口腔外科学】 骨粗鬆症の治療薬として広く用いられているビスフォスフォネート製剤(BP)について解説し、続いてBPに関連して発症する顎骨壊死の病態や予防法等について解説します。 ~メッセージ~ ビスフォスフォネート製剤に関連して発症する顎骨壊死について理解を深めてください。</p> <p>【麻酔科学】 今後、人口の高齢化に伴い、脊柱管狭窄症患者が増加していくが、今回のレクチャーでは、整形外科医師により外科的アプローチを、リハビリテーション部医師によるリハビリ、麻酔科医師による神経ブロックや薬物療法による保存的治療を学びます。 ~メッセージ~ 脊柱管狭窄症による腰下肢痛に対しての、保存的、外科的アプローチを学びます。</p> <p>【食道胃腸外科学分野】 直腸癌治療における集学的治療について症例を題材に、治療効果や問題点を明らかにします。放射線腫瘍科より、直腸癌に対する放射線治療について、泌尿器科より、放射線及び手術合併症としての排尿障害についての講義を予定しています。 ~メッセージ~ 直腸癌治療に関する理解を深め、消化管癌治療の魅力を感じて頂きたい。</p> <p>【精神医学】 SLEでは、多彩な臨床症状を呈するが、精神症状においても、錯乱・幻覚・妄想・抑うつ等、様々な症状を呈する身体疾患による精神症状を実際に臨床においてみられた症例をもとに解説する。 ~メッセージ~ 精神症状の背景にある身体疾患の可能性に目を向ける必要性を学んでください。</p> <p>【循環器内科学】 夜間呼吸困難、全身性浮腫を主訴に来院した患者の心エコー検査を施行すると、高度の心機能低下を認めた。さらに高度の蛋白尿と血清総蛋白の減少を認め、ネフローゼ症候群と診断された。症例を通じて、浮腫をきたす疾患の鑑別および治療法について学ぶ。 ~メッセージ~ 鑑別診断、病態をしっかりと見て、検査治療計画を考えてください。</p> <p>【免疫内科学】 大腸癌合併皮膚筋炎を取り上げ、癌と膠原病の診断と治療について考える。 ~メッセージ~ 膠原病と癌、学ぶことはたくさんあります。</p>
教科書・参考書等	各科のプリント
成績評価方法と基準	出席点

平成25年度6年次ユニオンレクチャー講義予定表
講義室:大講義室(金曜のみB講義室)

回	月日(曜)/時間/担当	講 義 項 目	関連講座
1	5月 20日(月) 15:40~17:10 災害・救急医学 川嶋 隆久	非定型肺炎	呼吸器内科・病理診断科
2	5月 21日(火) 15:40~17:10 神経内科学 鶴田 和夫	卵巣腫瘍の経過中にトルーソー症候群、たこつぼ型心筋症を呈した1例	循環器内科学
3	5月 22日(水) 15:40~17:10 皮膚科学 尾藤 利憲	変わりゆく血管肉腫の治療	放射線腫瘍科
3	5月 23日(木) 15:40~17:10 小児科学 森 健	神経芽腫	小児外科学、病理部・病理診断科
4	5月 24日(金) 15:40~17:10 口腔外科学 古土井 春吾	骨粗鬆症治療薬ビスフォスフォネート製剤に関連した顎骨壊死について	整形外科学(リハビリテーション部)
6	5月 27日(月) 15:40~17:10 麻酔科学 高雄 由美子	脊柱管狭窄症に対する外科的・保存的アプローチ	整形外科学(リハビリテーション部)
7	5月 28日(火) 15:40~17:10 食道胃腸外科学 山下 公大	直腸癌の集学的治療とその問題点	放射線腫瘍科・泌尿器科
8	5月 29日(水) 15:40~17:10 精神医学 毛利 健太朗	激しい精神病症状を呈したCNSループスの1例	免疫内科学
9	5月 30日(木) 14:00~15:30 循環器内科学 佐々木 直人	ネフローゼ症候群、心機能低下を示した症例	腎臓内科学
10	5月 30日(木) 15:40~17:10 免疫内科学 森信 曜雄	皮膚筋炎	腫瘍血液内科学・皮膚科学

科目名：個別計画実習

区分	内容	
学習指導教員 (チューター)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野教授・准教授(別表のとおり)
	備 考	※学生個々のチューターは5年次に決定する。 ※チューターは、個々の学生が計画する実習内容を、大局的な観点から個別に相談・承認・確認し、その実習計画に関して責任を有する。
学習指導教員 (個別計画実習担当教員)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野実習担当教員
	備 考	※各分野の実習担当教員は、学生が実習計画を策定するにあたり、各実習期において自科(分野)の実習を希望する学生に対して、その具体的な実習内容・実習先に関する情報提供や相談を行う。また実習協力病院に対して実習受入依頼を行い、時期毎の実習受入可能人数等を調整する。神大病院における実習時は、実習を担当する教員の代表として学生に対応する。
学習目標	<p>本実習は、学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施するものである。臨床実習のみならず研究室や海外での実習も対象とし、個々の学生に対して臨床関係の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容を吟味し指導を行う。</p> <p>臨床実習では、5年次に行ったB S L (Bed Side Learning : 大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習)とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。</p> <p>海外の実習では、外国での臨床実習または研究を通じて、異文化交流を深め、国際的な視野の獲得に勤めることを目標とする。</p> <p>研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。</p>	
実習の形式	<p>実習期間を大きく次の3つの期間(実習期)に分ける。</p> <p>第Ⅰ期：平成25年4月1日(月)～5月17日(金) 第Ⅱ期：平成25年6月3日(月)～7月19日(金) 第Ⅲ期：平成25年8月26日(月)～10月11日(金)</p> <p>原則として実習期ごとに異なる実習目的(実習分野)を掲げることとし、各期において設定した実習目的に基づき、個々のチューターと相談しながら実習計画を策定・実施する。各期において実習報告日を設け、実習状況を報告・確認するとともに、全実習終了時には実習内容に関する発表会を行う。</p>	
臨床実習について	<p>実習協力病院に対して実習を依頼し、実習協定書を取り交わす。あわせて「臨床実習の手引き」を作成・送付する。</p>	
成績評価方法	<p>各チューターが、担当する学生の全期を通した評価を行う。</p> <p>チューターは、各実習先における指導責任者の評価や、各期実習報告時の面談等における評価、自己評価及び発表会における評価等に基づき合否を判定する。</p> <p>発表会における優秀者は、卒業証書授与時に表彰する。</p>	

区分	内 容		
平田 健一	循環器内科学	教授	
吉田 明弘	循環器内科学	特命准教授	
石田 達郎	循環器内科	准教授	
森信 曜雄	免疫内科学	准教授	
東 健	消化器内科学	教授	
豊永 高史	消化器内科学／光学医療診療部	准教授	
有坂 好史	消化器内科学	特命准教授	
小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	准教授	
西 慎一	腎臓内科学	特命教授	
戸田 達史	神経内科学	教授	
苅田 典生	神経内科学	特命教授	
古和 久朋	神経内科学	准教授	
南 博信	腫瘍・血液内科学	教授	
松岡 広	腫瘍・血液内科学	准教授	
橋本 正良	プライマリ・ケア医学	特命教授	
杉村 和朗	放射線医学	教授	
杉本 幸司	血管内治療センター(放射線)	特命教授	
早川 晶	小児科学	准教授	
竹島 泰弘	小児科学／こども急性疾患学	特命教授	
北山 真次	小児科学／親と子の心療部	准教授	
飯島 一誠	小児科学／こども発育学	教授	
森田 宏紀	周産母子センター	准教授	
錦織千佳子	皮膚科学／免疫・感染内科学／臨床検査・免疫学	教授	
田中 究	精神医学	准教授	
平井みどり	薬剤学	教授	
掛地 吉弘	食道胃腸外科学	教授	
具 英成	肝胆脾外科学	教授	
大北 裕	心臓血管外科学	教授	
黒坂 昌弘	整形外科学	教授	
黒田 良祐	整形外科学	准教授	
甲村 英二	脳神経外科学	教授	
塙原 康友	眼科学	准教授	
丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	教授	
藤澤 正人	腎泌尿器科学	教授	
三宅 秀明	腎泌尿器科学	准教授	
田中 一志	腎泌尿器科学	特命教授	
寺師 浩人	形成外科学	教授	
一瀬 晃洋	形成外科学	特命准教授	
橋川 和信	形成外科学	准教授	
古森 孝英	口腔外科学	教授	
伊藤 智雄	病理診断学／病理部・病理診断科	特命教授	
荒川 創一	総合臨床教育・育成学	特命教授	
味木 徹夫	地域医療ネットワーク学	特命教授	

(別表)
チューター一覧(H25)